

Point 037

106 私の計画は、家を買う前に車の支払いを済ませることです。

□□□ My plan (for / to / paying / finish / is) my car before I buy a house. 〈千葉工大〉

107 For the first time in his life, Mike didn't know what ().

□□□ ① do ② to do ③ done ④ doing 〈京都産大〉

108 その男を罰するのは間違っていると、私たちは考える。

□□□ We (the / think / to / man / wrong / it / punish). 〈西南学院大〉

Point 038

109 このエプロンには物を入れるポケットがありませんね。

□□□ This apron has no (things / put / in / pockets / to). 〈東洋大〉

Point 039

110 テストはすべて合格だ、と君に言えてうれしい。

□□□ (you / happy / tell / am / to / I) that you have passed all the tests. 〈中京大〉

Point 037 名詞用法の不定詞

文中で名詞の役割をする、すなわち主語・動詞の目的語・補語になる不定詞は、名詞用法の不定詞と呼ばれる。

106 名詞用法の不定詞

基本

▶ be 動詞の補語となる名詞用法の不定詞句を作る。

107 疑問詞 + to do

基本

▶ 「疑問詞 + to 不定詞」は、文中で名詞句になる。本問では know の目的語。

108 S+V+it+C+to do

英作 標準

▶ 「S+V+O+C」の第5文型で、名詞用法の不定詞を目的語とする場合、必ず形式目的語の it を用いて、不定詞を後置し、「S+V+it+C+to do」の形にする。整序問題で頻出のパターン。

▶ **プラス** 名詞用法の不定詞が主語となる場合は、そのまま文頭に置くこともあるが、形式主語の it を用いて、「頭デッカチ」を避けることが多い。

To speak French is very difficult.

= It is very difficult to speak French.

(フランス語を話すのはとても難しい)

Point 038 形容詞用法の不定詞

直前の名詞を修飾する不定詞は、形容詞用法の不定詞と呼ばれる。

109 形容詞用法の不定詞—前置詞が残る場合

標準

▶ put things in A 「物をAに入れる」という表現を前提に、A to put things in 「物を入れるA」という名詞Aを修飾する形容詞用法の不定詞句を作る。前置詞 in が残ることに注意。

Point 039 副詞用法の不定詞

副詞用法の不定詞は、主として動詞を修飾するものを使うが、その表す意味を整理しておくこと(▶ p.52【整理13】)。

110 副詞用法の不定詞—感情の原因

基本

▶ 感情の原因「…して(うれしい, 悲しい, など)」を表す副詞用法の不定詞句を作る。

106 is to finish paying for 107 ② 108 think it wrong to punish the man

109 pockets to put things in 110 I am happy to tell you

- 111 副詞用法の不定詞—形容詞の意味の限定 **標準**
 ▶「**A is+形容詞+to do**」の形で、「**Aは…するには～だ**」の意で用い、不定詞が形容詞を修飾し、その意味を限定する用法がある。
 ▶この場合、主語が不定詞句の目的語となる関係があり、一般に、形式主語 **It** を用いて、「**It is+形容詞+to do A**」の形で言いかえられる。
 ▶本問の場合、形式主語 **It** を用いて言いかえると以下ようになる。
 It was painful to listen to the story of Anne's terrible accident.
- 112 副詞用法の不定詞—結果 **英作 標準**
 ▶副詞用法の結果を表す不定詞は、主に次の3つの表現で用いられる。
 ㊦ **wake (up)[awake] to find[see] ...** 「目が覚めると…だと知る」
 ㊧ **grow up to be ...** 「成長して…になる」
 ㊨ **live to do ...** 「…するまで生きる(←生きて…する)」
 ▶これ以外の表現では使わない方がよい。本問は㊦のパターン。
 ▶文の主語 **I** と **find** の目的語が同一人物であるから、再帰代名詞の **myself** を使うこと。
me は不可(⇒267)。
- 113 副詞用法の不定詞—逆接的結果 **only to do 標準**
 ▶**only to do** で、「(～したが,) 結局…だった」という逆接の結果を表す用法がある。本問の場合、以下のように言いかえることができる。
 I went to your house in the rain **but (I) found** that you were out.
!!注意 問題 110～113 以外の副詞用法の不定詞も、左頁の【整理13】で確認すること。

Point 040 不定詞の用法上の注意すべき点

- 114 不定詞を否定する語—**not[never] to do 標準**
 ▶不定詞を否定する語 **not / never** は不定詞の直前に置く。
- 115 不定詞の意味上の主語—**for A to do 標準**
 ▶不定詞の意味上の主語を明示する場合は、「**for+(代)名詞**」を不定詞の直前に置く。本問では、形式主語の **it** を用いた **It is ... for A to do** の形を作る。
- 116 **S+V+it+C+for A to do 発展**
 ▶「**S+V+it+C+to do**」(⇒108)の形に、不定詞の意味上の主語 **for A** を組み込む。
 ▶**not to do** の否定形の不定詞(⇒114)にも注意。

117 (a) He was careless to make the same mistake.

- (b) () () careless () him to make the same mistake. 〈実践女子大〉

118 (a) It seemed that he had finished his homework.

- (b) He seemed () his homework.
 ① to finish ② to have finished ③ finishing ④ finished 〈桜美林大〉

119 The boys decided to fight, but the girls begged them ().

- ① not to ② to not ③ not ④ no 〈東京国際大〉

Point 041

120 その本はあまりに難しすぎて、私たちには理解できなかった。

- The book was () difficult () () to understand. 〈鹿児島大〉

121 John is only thirteen. He is () to get a driver's license.

- ① not old enough ② not too young
 ③ too old ④ young enough 〈センター試験〉

122 He is () vote for such a dishonest candidate in the election.

- ① enough intelligent not to
 ② intelligent enough not to
 ③ intelligent to not enough
 ④ not enough intelligent to 〈慶應義塾大〉

123 (a) Would you be kind enough to direct me to the library?

- (b) Would you be () kind () to direct me to the library? 〈専修大〉

117 (a) (b) 同じ間違いを犯すなんて、彼は不注意だった。

118 (a) (b) 彼は宿題を終えてしまっていたようだった。

119 少年たちは戦うことに決めたが、少女たちはそうしないように彼らに懇願した。

121 ジョンはまだ13歳です。車の免許を取れるほどの年齢ではありません。

122 彼は、選挙であのような不誠実な候補者に投票しないくらいに聡明である。

123 (a) (b) すみませんが、図書館への道を教えてくださいませんか。

117 It is + 人の性質・性格 + of A to do

標準

▶ It is ... to do の形式主語構文で、「人」を不定詞の意味上の主語として使い、人の性質・性格を表す語が補語に来る場合、It is ... of A to do の形になる。一般にこの形は、(a)のように A is ... to do の形に言い換えることができる。

整理 14 It is ... of A to do のパターンで用いられる形容詞

- **careless** 「不注意な」
- **foolish** 「愚かな」
- **cruel** 「冷酷な」
- **clever** 「利口な」
- **polite** 「礼儀正しい」
- **stupid** 「愚かな」
- **wise** 「賢い」
- **rude** 「無作法な」
- など
- **kind** 「親切な」
- **considerate** 「思いやりがある」

118 完了不定詞(to have done)の用法

標準

▶ 完了不定詞(to have done)は、文の述語動詞の時点よりも「前」であることを表す。現在時制と完了不定詞とが用いられている場合、完了不定詞が「過去」の内容を表しているか、「現在完了」の内容を表しているかは、文脈によって決まる。

119 代不定詞

標準

▶ 前に出てきた動詞表現の反復を避けるため、to だけを用いて不定詞の内容を表す用法がある。これを代不定詞という。不定詞を否定する語は不定詞の直前に置く(⇒114)ので、否定の代不定詞は not to となる。本問はその形を問うたもので、the girls begged them not to (fight) と考えればよい。

Point 041 不定詞を用いた慣用表現

120 too ... to do 「とても…なので～できない／～するには…すぎる」標準

▶ to understand の前に、不定詞の意味上の主語(⇒115)を表す for us を入れる。

121 ... enough to do 「～するほど…／とても…なので～する」標準

▶ 正答以外の選択肢は、文法的に誤りではないが、文意が合わない。

122 ... enough not to do 「～しないほど…／とても…なので～しない」

発展

▶ enough が形容詞・副詞を修飾する場合、その語の後に置くことに注意。その点から①、④は不可。

123 so ... as to do = ... enough to do

標準

▶ so ... as to do は、... enough to do(⇒121)の同意表現として押さえる。

- 124 **in order to do / so as to do** 「…するために」 **標準**
 ▶「目的」を表す副詞用法(⇒p.52【整理13】の(4))であることを明示するには、**in order to do** や **so as to do** の形を用いる。
 ▶③は for the purpose of *doing* という動名詞を従えた形で「目的」を表す用法。本問では空所の後に動詞の原形が来ているので不可。
!!注意 **so as to do** 「…するために」と問題123の **so ... as to do** 「～するほど…」を混同しないこと。
- 125 **so as not to do / in order not to do** 「…しないように」 **標準**
 ▶不定詞を否定する語は不定詞の直前に置く(⇒114)ので、**so as not to do / in order not to do** の形で「…しないように」の意味を表す。問題124の表現の否定形。

Point 042 ∴ 原形不定詞の用法

- 126 原形不定詞を用いる場合 **標準**
 ▶感覚動詞(see, hear, feel, watch, look at, listen to など)、使役動詞(make, have, let)の目的格補語となる不定詞は原形不定詞になる。つまり「**V+O+do**」の形になる。
- 127 原形不定詞→受動態では **to** 不定詞 **標準**
 ▶原形不定詞は、受動態になると **to** 不定詞となる。
- 128 **All she does is** + 原形不定詞 **発展**
 ▶主語となる部分に「動詞の do」が用いられる場合、それに続く be 動詞の補語には **to** 不定詞／原形不定詞のいずれも用いられる。本問の④は原形不定詞を用いたもの。
 ▶all の後には関係代名詞 that が省略されている。
+プラス **All S have to do is** + 原形不定詞 [**to** 不定詞] = **S have only to do** 「Sは…しさえすればよい」(⇒46)は頻出パターン。
All you have to do is (to) clean your room.
 = *You have only to clean your room.*
 (君は自分の部屋を掃除しさえすればよい)

Point 043

129 その国際会議は、明後日、開催される予定です。

- The (after / be / conference / day / held / international / is / the / to) tomorrow. 〈愛媛大〉

130 The key (not / was / be / found / to) anywhere. 〈奥羽大〉

□□□

131 われわれは、現代の世界でうまく生き、また職場で成功するつもりなら、学び続けなければならない。

- (keep / live and work / learning / if we are / we must / to) successfully in today's world. 〈東海大〉

Point 044

132 危険なことはもちろんのこと、この探検には金がかかる。

- This expedition will be expensive, to say () of the danger. 〈学習院大〉

133 Lying is a bad habit, to say the () of it.

- ① least ② worst ③ less ④ worse 〈青山学院大〉

134 () to say, world peace is desirable for all people.

- ① When it comes ② Why don't you
③ Needless ④ Quite a few 〈西南学院大〉

整理 15

独立不定詞

- **to tell (you) the truth** 「本当のことを言う」と
- **to be frank with you** 「率直に言えば」
- **to be sure** 「確かに」
- **to begin [start] with** 「まず第一に」
- **needless to say** 「言うまでもなく」(⇒134)
- **strange to say** 「奇妙な話だが」
- **to make matters worse** 「さらに悪いことには」
- **so to speak [say]** 「言わば」
- **to do A justice** 「Aを公平に評すると」
- **to say the least (of it)** 「ひかえめに言っても」(⇒133)
- **not to say A** 「Aとは言わないまでも」
- **to say nothing of A**
= **not to speak of A**
= **not to mention A**
「Aは言うまでもなく」(⇒132)

130 そのキーはどこにも見つけれなかった。

133 ひかえめに言っても、うそをつくことは悪い習慣です。

134 言うまでもなく、世界平和はすべての人たちにとって望ましい。

Point 043 : 「be+to 不定詞」の用法

129 be+to 不定詞—予定・運命

読解 標準

▶「be+to 不定詞」の形で、予定・運命「…する予定だ／…することになっている」を表す用法がある。本問はこの形を作る。

!!注意 主語の後に「be+to 不定詞」の形が続いて「Sは…すること」(⇒106)と訳せなければ、いわゆる「be+to 不定詞」の用法だと考えてよい。

130 be+to 不定詞—可能

標準

▶「be+to 不定詞」の形で、可能「…できる」を表す用法がある。ただし、この用法は、本問のように否定文で、不定詞は to be done の受動態の形で用いられることが多い。

131 be+to 不定詞—意図・目的

読解 標準

▶通例、if 節中に「be+to 不定詞」の形を用いて、意図・目的「…するつもりなら／…するためには」を表す用法がある。本問は、if 節中に意図・目的を表す「be+to 不定詞」を作るのがポイント。

+プラス 「be+to 不定詞」は、(1)予定・運命、(2)可能、(3)意図・目的の他に、(4)義務・命令を表す用法もある。以下の例を参照。

You are to come home by seven. (7時までには帰ってらっしゃい)

Point 044 : 独立不定詞

副詞用法の不定詞のひとつだが、完全に成句化したものなので、左頁の【整理15】の表現をイディオムとして覚えてしまうのがよい。

132 to say nothing of A 「Aは言うまでもなく」

標準

+プラス 同意表現の not to speak of A / not to mention A も押さえる。

+プラス not to say A という独立不定詞があるが、これは「Aとは言わないまでも」の意味。以下の例を参照。

Tom is impolite, not to say arrogant.

(トムは、傲慢^{ごうまん}だとは言わないまでも、不作法だ)

133 to say the least (of it) 「ひかえめに言っても」

標準

134 needless to say 「言うまでもなく」

標準

▶①は、when it comes to A / doing の形で用いて「話が、Aに／…することになると」の意味を表す表現(⇒146)。to の後には名詞か動名詞が来ることに注意。

129 international conference is to be held the day after 130 was not to be found

131 We must keep learning if we are to live and work 132 nothing 133 ① 134 ③